

2017年度 委員会事業報告書

担当副理事長 小山高史

まちの未来育成委員会 委員長 安井貴仁

1. 委員会開催日 (12回)

1 / 18	2 / 19	3 / 1	4 / 4	5 / 9	6 / 14	7 / 16
8 / 19	9 / 11	10 / 3	11 / 24	12 / 28		

2. 事業報告

- | | |
|-------------------|------------------|
| ① 例会の担当 | 2月15日、25日・10月21日 |
| ② わんぱく相撲(5月例会)の担当 | 5月27日 |
| ③ 新入会員の拡大 | 通年 |
| ④ 新入会員の育成 | 通年 |

3. 委員会メンバー

安井貴仁 中川翼 羽根豪一 渡邊康弘

出向メンバー

吉岡和也

4. 反省点及び申し送り事項

当委員会では、1年を通して旺盛な意欲と行動力を養い、フロンティア精神をもった子どもを育成することがまちの未来への活力を生み出すと考え活動してまいりました。

まずは、人々と地域間を繋げるスポーツを通して、交流の場を設けました。当青年会議所として初めての開催となる、「JCカップ海部津島大会」を通して、参加者に地域間の交流を促すことで顔の見える関係性を築き、他者を思いやる心を養っていただきました。メンバーにはスポーツを活用した地域活性の手法を学ぶとともに実践を通して、まちづくり活動の担い手として再認識をしていただくことが重要であると考え例会設営いたしました。スポーツにおけるする人、みる人、ささえる人と三者が関わり合う中で、する人(競技者)、ささえる人(主催者)は必然的に密接に関係し交流できたが、みる人(保護者や観客)をいかに巻き込んでいくのか、という面が非常に難しくこれからの課題であると感じました。しかしながら、スポーツを“見る人”は、純粋に観戦がしたい人、応援がしたい人、ついて来ているだけといった人が多く、スポーツに対して積極的な参加は少数であると感じました。従来のスポーツ大会とは一線を画するものを生み出せるのも青年会議所の強みであると思います。みる人をする人や、ささえる人に引き込んでいくことができれば、まちに対する考え方もスポーツを通して変わり、地域間の交流が促進され、様々なことに主体的に参画をする人が増えていくことで、人口減少時代に当地域における活躍人口を増やしていくことにつながり、未来への活力の礎になると思います。

そして、相撲を通して思いやりの精神を育み、自らを律し行動出来るよう導くことで、他者を受け入れ、自らを受け入れる心を培っていただく場を設けました。本年度15回を迎える「わんぱく相撲海部津島場所」において、座禅を通して自らを律し全てをあるがままに受け入れる姿勢を養っていただきました。子どもたちは相撲の中で、礼節を自然と学び、行動し、座禅を通して得たあるがままを受け入れることで勝敗に関わらず自律した行動をして過ごすことができました。わんぱく相撲という参加者や、関係者が多く関わる事業

を実施する上で、全ての企画が伝わりきらずに過ぎてしまうリスクはありますが、海部津島青年会議所が実施するという側面から、他の大会との違いを出すこと、海部津島青年会議所だからできる大会にしていくためにどのように伝えるべきかという点をしっかりと精査をして議案構築時から関係各位との検討を重ねていく必要があると考えますので申し送りさせていただきます。

また、フロンティア精神をもつには、子どもに自信を持たせることが必要と考え10月例会を設営いたしました。自信を向上させるにあたり、欧米人の自信は自分はどうなのかという対自的であるのに対し、日本人の自信は人から見てどうなのかという対他的であるという文部科学省の世界との比較の研究を基に自己有用感を例会の目的として設定いたしました。しかしながら、構築時から準備不足などのことから、学びをすべて伝えきらずに終わってしまいました。その結果、メンバーには多くの負担をかける結果となりました。また、安心安全の例会設営面から考えると全く許されない瑕疵のある例会となってしまいましたことは、すべて委員長自身の例会に臨む姿勢、例会構築のスケジュールの破綻が招いた結果であると思います。そんな中で、少し例会の中でお伝えしたことがアンケートの中にもありました、これから家族のために家事を頑張るといった言葉も出ていたことから、設定は間違っていなかったのかと、一筋の光を感じました。今回、青少年育成事業として、自己有用感を取り入れましたが、これは子どもだけでなく大人社会にも通用する概念です。学びと実践を行った保護者に関しても役立つものと思います。自己有用感を持つことで、地域のため、地域の人のために取り組む姿勢がはぐくまれ、海部津島地域の活躍人口の増加に繋がり、まちの未来への活力を生み出すうえで、必要なものであると確信しました。

以上を反省点及び申し送り事項とさせていただきます。

5. 委員長所見

この一年間、委員長として入会以来最も積極的に青年会議所活動に参加をしてまいりました。経験不足なところを経験豊富な委員会メンバーに支えられ委員会運営をすることができました。しかし、メンバーが安心して信じて、ついていこうという委員長として姿勢は見せてこられなかったことが心残りであり、後悔です。至らぬ点を指摘されても、なかなか改善できず、委員会メンバーには支えようにも何を支えればいいのかわからなかったと思います。そんな中でも、副委員長を中心に私を叱咤していただきながら活動していただけたおかげで、1年間運動を展開できたと思います。また、青少年事業を担当する委員会をお預かりさせていただきましたが、私自身は結婚もしておらず、子どももない状況の中で、常に手探りの状況でした。その中で事業構築の際、持っていた指針としては、この地域にどんな人財が必要か、将来この地域で活躍できる人財の種まきをするとしたら、どんなスキルが必要で、どんな子どもに育つべきなのかという自分の子どもをもたないからこそその視点で挑みたいと考えてまいりました。委員会メンバーそして青年会議所メンバーの皆様には深甚なる敬意と感謝の気持ちでいっぱいです。委員長としてしっかりと担いを全うし、背負う全てのメンバーの想いをしっかりと理解し行動していれば、メンバーだけでなく、この海部津島地域にもっと多くのことを伝え、青年会議所活動を展開できたのではないかと思います。

三度の例会を設営する中で、自身の所作、行動がいかにも未熟で、いかに多くのメンバーに付度いただいていたかを今まさに痛感しています。旺盛な意欲と行動力を身につけていくために自己有用感を高めて行く設えをしてまいりましたが、適正な評価をいただく行動ができていない以上、評価は得ることができず、ひいては自身の自己有用感も向上せず、それが姿勢・行動の甘さにも繋がって行きました。委員長である以上、地域の期待、理事メンバーの想い、青年会議所メンバーの想いを背負っているという自覚を持って活動して行くことの必要性を感じました。

最後になりますが、当委員会が設営する例会では、時間だけでなく、多くのメンバーに体を張っての参加をいただきましたことを心より敬意と感謝を申し上げます。そして、このような委員長の下で一年間活動していただけた委員会メンバーには感謝の気持ちと懺悔の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

した。

6. 収 支 決 算

収入の部				支出の部			
予 算		決 算		予 算		決 算	
事業費	0	事業費	0		0		0
合 計	0	合 計	0	合 計	0	合 計	0